

スギラン *Huperzia cryptomerina* (Maxim.) Dixit

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 12。自然度の高い森林に依存する植物で、全国的に見ても減少傾向が著しい。伐採などの影響を受けやすく、園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。茎はまばらに叉状に分岐し、斜上して先端が下向きに垂れることも、斜め下に出て先端が立ち上がることもあり、長さは大きいもので 30cm をこえ、直径 3~5mm、わら色か緑色で、多数の葉をらせん状につける。葉は開出または斜上し、線形~狭披針形、長さ 1~2cm、全縁、革質で緑色~深緑色である。胞子のうは枝端近くの葉の基部につき、胞子葉は栄養葉よりやや小さい。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 57087, 1995-6-10), 6 設楽西部 (芹沢 34361, 1982-11-11)、8 鳳来北東部 (村松正雄 14910, 1993-12-24)。西：5 稲武 (芹沢 82141, 2007-9-1)、19 旭 (塚本威彦 561, 1993-5-16)。2 豊根 (茶臼山, 加藤等次 s.n., 1966-6-9)、4 津具 (石田雄吉 2, 1979-10-23)、12 新城 (富岡, 加藤等次 s.n., 1963-9-8)、13 豊川 (本宮山, 鳥居喜一 30071, 1955-10-30, HNSM) で採集された標本もある。これらのうち津具の標本は、他に比べ葉がやや幅広い。

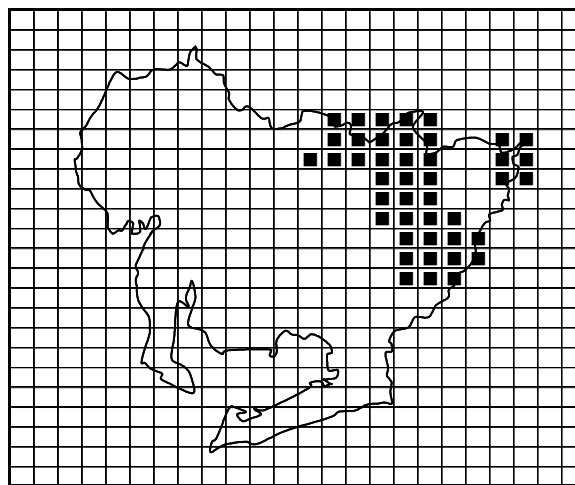
【国内の分布】

北海道東部から屋久島にかけて分布する。

【世界の分布】

日本、濟州島、台湾。インドからも記録されている。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

通常深山の沢沿いの自然林の樹幹に着生するが、岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

どの生育地も個体数が少なく、ある程度の量があつて確実に観察できるのは愛知県内では 1 カ所だけである。第二次大戦後の自然林が広範囲に伐採された時期には、それにより著しく減少したものと思われるが、現在は園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存するだけである。現在残っている林は、嚴重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、スギの枝に似た形の着生植物だからである。樹幹に着生するヒカゲノカズラ類としては、最も北まで分布する。

【関連文献】

保シダ p.10, 平シダ p.45, 学シダ I p.265, 環境省 p.364, SOS 旧版 p.35+図版 2.
倉田 悟・中池敏之(編). 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 58-62. 東京大学出版会, 東京.